



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 株式会社インクス

コンピュータがさまざまな分野に導入されるようになってから、すでに 5  
30年。しかし、ネットワーク・コンピューティングという概念がここまで  
身近なものとなり、コンピュータが、世の中の仕組みをこれほどまで  
に変化させると、誰が想像しえたでしょう。私たちincsは、こうした  
ネットワークの時代に、おそらくはハイスピードで変貌を遂げていくで  
あろう工業の姿を、“情報工業”と定義し、その未来形の研究を続けて 10  
きた企業です。かつて、蒸気機関の出現が工業のあり方を一変させた  
ように、一元化したコンピュータとネットワークの活用が、明日の工業  
の姿をつくり変えるのです。生産能力そのものの価値は失われ、知的情  
報資源が価値をもつ“知的産業革命”——私たちは、今、そんな時代を  
生きているのです。そして、この変革をリードしていくのはincsであ 15  
る。これが創立以来7年の時を経て、私たちが勝ち得た自負なのです。

(会社案内より)

1998年の年初、株式会社インクスの山田眞次郎社長は、川崎市にある12階の見晴らしの良  
いオフィスから多摩川沿いに広がる京浜工業地帯とその先の都心を見渡し、時代の波——山 20  
田社長が『情報工業化』と呼ぶもの——がいま急激に自分の方へ押し寄せつつあることを感  
じていた。

自動車や電機などの製品開発プロセスは、従来、図面をベースにして進行していた（付属  
資料1：図面ベースの製品開発プロセス）。デザイン部門が作成する意匠図面、設計部門が  
作成する製品設計図面、金型部門が作成する金型設計図面は、それぞれ別に存在し、データ 25  
の一貫性の保証はなかった。また、もともと3次元のものを2次元に展開するため、図面には  
あいまいさや、つじつまがあわない個所が必ずあった。

1980年代終わりごろから、3次元CAD（Computer Aided Design：コンピュータ設計支援）  
やコンピュータ・ネットワーク技術が進化したことにより、製品の形状やつくりかた（工程） 30

---

本ケースは、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター竹田陽子専任講師によって作成された。  
本ケースの記述は、経営管理の巧拙を示すものではなく、分析ならびにクラス討議の資料として作成された  
ものである。